

第 9 章 今後の課題

本研究では長野県産材を使用した住宅の環境面での優位性を検討するための基礎調査として、北信ではスギ、東信ではカラマツ、中信ではアカマツ、南信ではヒノキの CO₂ 排出量の原単位データ及びカーボンバランスを構築することを目的とした。仕上げ後の材積量 1m³ を単位物量として定め、単位物量製造するのに排出される環境負荷原単位をそれぞれ算出した。

今回までに調査対象としているものは全て角材であった。今後は集成材や合板についても同様に LCA 調査を実施し、住宅分野のみではなく木造公共建築物などの中・大規模木造建築物への県産材の利用促進を図る必要がある。

また海外においても木材の LCA 調査は実施されているが、輸入材と県産材との比較を行う場合には、それぞれのデータや調査結果が的一对一で対応しているかを正確に把握する必要がある。